

目標（４）

学校・家庭・地域が連携を深め、 12年間の学びや育ちをつなげます



▲異校種間連携事業（小6－中1）

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ◇ 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかかわりながら学んでいます。 ◇ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。

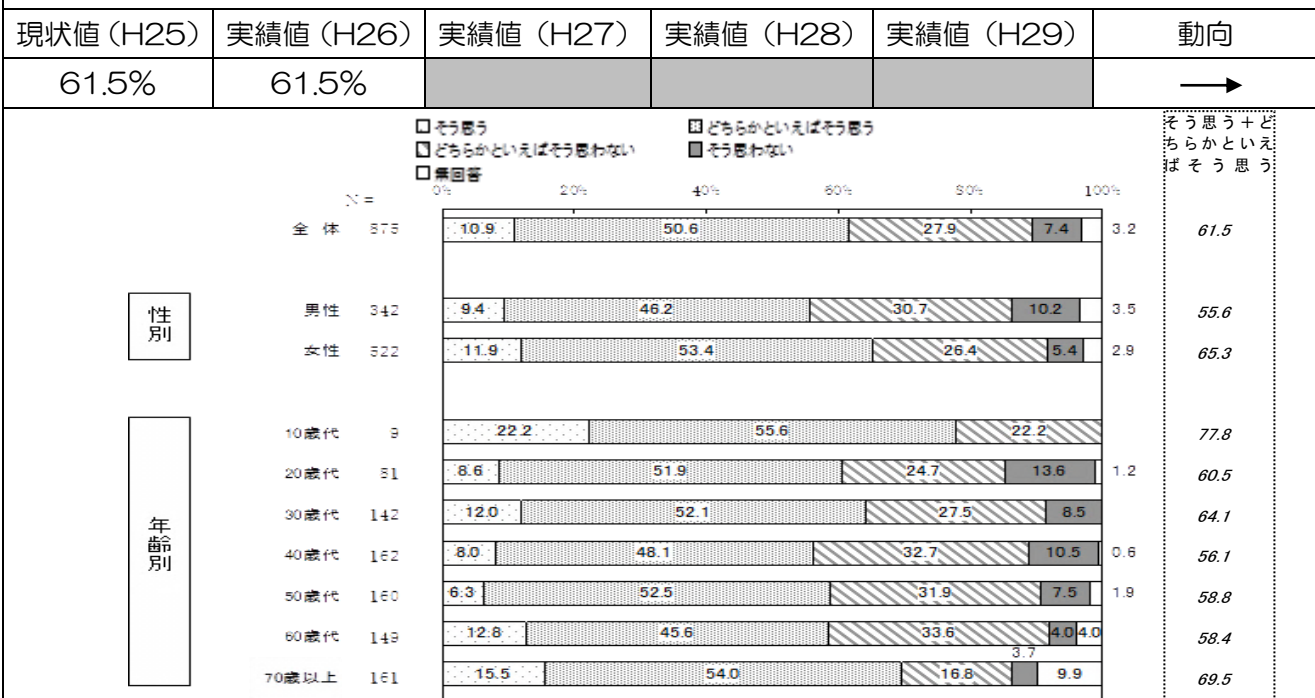
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
（１） 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。	①異校種参観（年長・小1・小6・中1担任）や異校種間連携事業を実施した。（幼保小連携、小中連携）	H26.4～ H27.3
	②異校種間連携推進委員会を開催し、各校連携の状況報告を行った。（年5回）	H26.5～ H27.3
	③「中1ギャップ」に関する実態調査を行い、分析結果を報告した。	H26.6 H27.1
（２） 各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと*）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。	①幼保小中において、保育計画・学習計画を作成・実践した。	H26.4～
	②各園、各校の実践を、他園や他校が参考にできるよう、「学習指導計画」や「ワークシート」などの各指導資料を作成し、全園・全校がいつでも閲覧できるように保存した。	H27.3
（３） 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。	①異校種間連携推進委員会にて、生活習慣・学習習慣（めざす姿）の目安の周知方法を検討した。	H26.5～8
	②異校種間連携推進委員会にて、生活習慣・学習習慣の目安を周知するためのカレンダーや周知用ポスターのデザインについて検討した。	H26.8
	③教育基本構想推進の様子を家庭や地域に可視化するため、カレンダーに各校各園の活動写真や連携交流事業日程を掲載したデザインにした。	H27.1

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

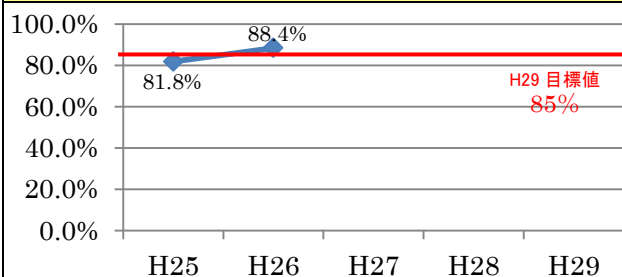
1. 市民意識調査結果

【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う

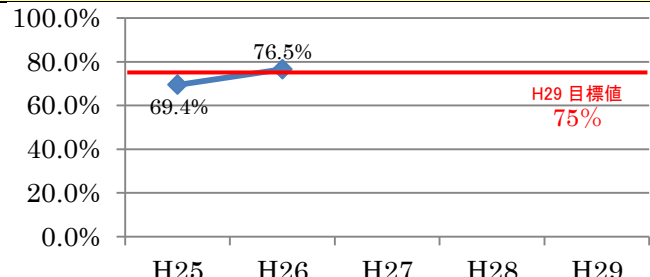


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 学校が好きと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 指標1)「学校が好きと感じている子どもの割合」は、策定時と比べて6.6%の伸びとなった。中でも、中学1年生、2年生の数値がよく伸びた。異校種間連携を中心に、さまざまな取組を実施してきた成果が少しずつ出ているのではないかと。今後も、異校種参観と異校種間連携事業に継続して取り組み、学校が好きと感じられる子どもを育てていきたい。
- 指標2)「学習に積極的に取り組む子どもの割合」は、策定時と比べて7.1%の伸びとなった。高浜カリキュラムの実施で、生活科と総合的な学習の時間が充実し、学ぶ楽しさを実感した児童・生徒が意欲的に学習に取り組むようになってきた成果も関係しているのではないかと。今後も、高浜カリキュラムの継続実施とカリキュラムの改善を図っていきたい。
- 市民意識調査結果は、策定時と変化がなかった。実績値の向上を信じて、今後も、高浜市教育基本構想を着実に推進させるよう努めていく。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案）	見直し・改善（案）
<p>（1）幼・保、小、中の垣根を越えた教職員の連携のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長、小1、小6、中1の担任を中心に異校種参観を行い、それぞれ接する園児や児童・生徒の様子や教職員の保育、教育活動を実際に参観した。そこで感じ取った教職員の支援や工夫と、それと関連する園児や児童・生徒の様子から、<u>保育や教育の姿勢や技術を学ぶことができた。</u>その一方、参観の視点が定まらず、参観の経験をその後の保育や教育活動に十分に生かし切れなかった例もあった。 異校種の接続点である、年長、小1、小6、中1の担任を中心に異校種参観を行ってきたことは、当然のことであるが、教職員によっては低学年や高学年が多いなどのように担当する学年が偏る場合がある。<u>同じ職員が毎年参観するようなケースが出てきた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 異校種参観の視点については、これまでも学校経営グループから示してきたが、それに加えて、各園や学校が自園、自校の保育や教育活動の重点的な取組みなどの、<u>参観してもらいたい視点を参観シートに記述することによって、より効果の上がる実施方法を追求していく。</u> 参観する教職員について、これまでの年長、小1、小6、中1の担任から、<u>参観を希望する教職員まで拡大し、より多くの教職員が異校種参観を行い、それぞれの教職員の取組みや園児、児童・生徒の様子から学ぶことができるようにしていく。</u> 	<p>拡充・強化</p> <p>拡充・強化</p>
<p>（2）「高浜カリキュラム」の改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 各園や学校、高浜の特色を生かした「高浜カリキュラム」を保育や生活科、総合的な学習の時間で実施しながら、最終的に年間指導計画としてまとめて、次年度以降も活用できるように取り組んできた。これまで、年少、小3、小4、中1で実践を行いながら今後も活用できる年間指導計画を蓄積してきた。しかし、実践を進める中で、<u>小5の「安全・防犯」について、児童が主体的に取り組むための魅力ある単元を構想するには、難しい部分があることが明らかになってきた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 高浜カリキュラムは今年度、新たに年中、小1、小5、中2の年間指導計画について実践を踏まえて完成させていく。加えて、5年生の「安全・防犯」の内容について、よりその学校の特色を生かしたものに変わっていきたいという声が、いくつかの小学校からあがり始めたことに対応する。<u>具体的には、5年生の内容について、米作りや食育、瓦づくりや高浜の産業として学習に取り組めるような単元を構想し、実践を積み重ねながら年間計画を作成していく。</u>ただし、引き続き「安全・防犯」の実践を深めていく学校もある。 27年度末で、年少、年中、小1、小3、小4、小5、中1、中2の年間指導計画を蓄積する。 	<p>継続</p> <p>継続</p>
<p>（3）「目指す子ども像」実現のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 高浜市として育てていきたい生活習慣・学習習慣と、それを重点的に取り組む月を示したカレンダーを作成した。<u>今後はこのカレンダーを各園や学校がどう活用していくか、カレンダーを活用して家庭やまち協、町内会、公民館、地元企業、おやじの会とどう連携していくかが課題となる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーの活用を各園、学校が図っていく。保護者やまち協、おやじの会などと連携したあいさつ運動や登下校の見守り、図書ボランティアによる読み聞かせ、朝の帯タイムを活用した読書、まち協、町内会、公民館、地元企業、おやじの会と連携した学習会や交流行事、発言のルールなどを意識した学習習慣の育成などの<u>具体的な取組みを各園、学校が展開する。</u>実施した取組みについては、委員会を開催して、その具体的な内容や成果を情報交換し、各園や学校が今後の取組みの参考にできるようにする。 	<p>継続</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

- 指標の数値が非常に伸びたが、できる子とできない子の「二極化」が進んでいないかが懸念される。数値に表れない子どもたちへのフォローも重要である。
- 市民意識調査等の結果分析にあたっては、行政だけの分析ではなく、子どもたちと直に接している教職員の方々の意見を集約する手立てを講じてほしい。「異校種間連携事業」や「高浜カリキュラム」の成果を検証するには、もう少し慎重な検討が必要ではないか。
- 異校種参観などで交流することはとても良いことで、教職員自身にとっても勉強になると思うが、多忙な教職員へのバックアップ体制の強化に努めてほしい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 「目指す子ども像」のカレンダーの活用方法については、各学校・園と行政が情報を密に交換しながら検討するとともに、カレンダー作成の意図や目的が、しっかりと保護者に伝わるための方策を考えていただきたい。
- 学校から「高浜カリキュラム」を改善していきたいとの声が挙がり、行政がその声に応えるようすを見て取ることができ、とても感心した。

その他、目標の達成に向けて

- 目標のフレーズには「学校・家庭・地域が連携を深め」とあるが、【DO】や【ACTION】からは「地域との連携」が見えてこない。学校には、地域をもっと機能的な教育能力を持った実在的存在として捉えていくという姿勢がほしい。行政側も、地域のことを、学校を助ける力を持った機能的な存在として活かしてほしい。
- 地域の教育力を高めていくためには、生涯学習政策がベースとなる。生涯学習、学校教育、子育て・子育ての3分野は、互に関わり合いが深く、連携が欠かせない。縦割りにならないよう各部署が連携し、お互いに問題点を出し合いながら取り組んでいただきたい。
- 「学校と地域との連携」について、シートには表現されていないが、自治基本条例の出前授業をはじめ、中学2年生では職場体験、小学4年生では総合学習で地域の人たちと深く関わるなど、実際には多くの取組みが行われている。そういった部分をもっと見えるようにしていくとよい。